

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（大気環境調査）

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号: 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（場内中央）		平均値（村田町役場）		変更点 (頻度) ※1	見直し内容及び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
大気環境調査	年4回	2地点	大気環境基準	ジクロロメタン	μg/m <sup>3</sup>	150	0.66	0.82	0.65	0.84	年1回	②-A	場内中央及び村田町役場ともに基準値適格が継続しており、両地点で大きな差異は認められないため、頻度を年1回にする。
				ベンゼン	μg/m <sup>3</sup>	3	0.71	0.48	0.84	0.52			
				トリクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	200	0.69	0.23	0.20	0.12			
				テトラクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	200	0.054	0.024	0.048	0.019			
			指針値	塩化ビニルモノマー	μg/m <sup>3</sup>	10	0.0046	0.0021	0.0059	0.0020			
				1,3-ブタジエン	μg/m <sup>3</sup>	2.5	0.068	0.019	0.098	0.029			
				アクリロニトリル	μg/m <sup>3</sup>	2	0.010	0.003	0.015	0.004			
				クロロホルム	μg/m <sup>3</sup>	18	0.12	0.15	0.13	0.14			
				1,2-ジクロロエタン	μg/m <sup>3</sup>	1.6	0.10	0.08	0.10	0.08			
				水銀及びその化合物	ngHg/m <sup>3</sup>	40	1.6	1.3	1.7	1.4			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（大気環境調査）

※1「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（場内中央）		平均値（村田町役場）		変更点 (頻度) ※1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
大気環 境調査	年4回	2地点	目標値	硫化水素	ppm	0.02	0.00028	0.00028	0.00023	0.00020	年1回	②-B	いずれの項目も臭いを感じないほどの低濃度を保っているため、頻度を年1回にする。
				メタン	mg/m <sup>3</sup>	-	1.7	1.7	1.5	1.5			
				アンモニア	ppm	-	0.018	0.013	0.011	<0.1			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（硫化水素連続調査）

※1 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（場内境界）		変更点	見直し内容及び理由※1	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度			
硫化水素 連続調査	24時間	2地点	管理目標 基準	硫化水素	ppm	0.02	0.015	<0.005	なし	①-C	検出下限値未滿が継続しているが、本処分場の生活環境保全上の支障は、有害ガス（硫化水素）及び悪臭による支障又は支障のおそれであり、処分場内の常時監視を行うため現状維持とする。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（放流水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4 の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値 (放流水)		変更点 (頻度)※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度			
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基準 項目	pH	—	5.8—8.6	8.2	8.1	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するの に必要であるため、現状維持とす る。
				BOD	mg/L	60	44	20	年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。
				SS	mg/L	60	35	16			
				鉛	mg/L	0.1	0.0020	<0.001			
				砒素	mg/L	0.1	0.0040	0.0030			
				1,4-ジオキサン	mg/L	0.5	0.040	0.038			
				ほう素	mg/L	50	4.2	2.8			
				ふっ素	mg/L	15	1.1	0.96			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（放流水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		変更点 (頻度)※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基準 項目	アンモニア	mg/L	200	33	12	年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。
				大腸菌群数	個/cm <sup>3</sup>	3000	14000	6900			
				ノルマルヘキ サン抽出物質 (鉱物油)	mg/L	5	0.60	0.90			
				ノルマルヘキ サン抽出物質 (動植物油)	mg/L	30	3.4	2.8			
				フェノール含 有量	mg/L	5	0.030	0.050			
				亜鉛含有量	mg/L	2	1.1	0.24			
				溶解性鉄含有 量	mg/L	10	0.80	0.48			
				溶解性マンガン 含有量	mg/L	10	1.9	1.1			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（放流水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		変更点 (頻度)※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水水 質調査	年4回	1地点	排水基準 項目	ベンゼン	mg/L	0.1	<0.001	<0.001	終了する	③-A	定量下限値未滿が継続しているた め、調査を終了する。
				総水銀	mg/L	0.005	<0.0005	<0.0005			
				有機リン化合 物	mg/L	1	<0.1	<0.1			
				六価クロム化 合物	mg/L	0.5	<0.02	<0.02			
				1,2-ジクロロ エタン	mg/L	0.04	<0.0004	<0.0004			
				銅含有量	mg/L	3	<0.03	<0.03			
				クロム含有量	mg/L	2	<0.02	<0.02			
	年2回			ダイオキシン 類	pg-TEQ/L	10	0.13	0.030	年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、 頻度を年1回にする。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（放流水水質調査）

※1 「変更点」欄の  : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		変更点 (頻度)※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水水 質調査	年4回	1地点	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	210	130	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するの に必要であるため、現状維持とす る。
				水温	℃	—	27.4	26.9			
				流量	m <sup>3</sup> /秒	—	0.006	0.0031			
				流量	m <sup>3</sup> /秒	—	0.006	0.0031			
				電気伝導率	mS/m	—	193	190			
				硫酸イオン	mg/L	—	27	8.1			
				透視度	度	—	>50	>50			
				溶存酸素量	mg/L	—	12	11	年4回	①-A	放流水では、H28年度以降の平均 値が6.2mg/Lと嫌気条件になっ ていないが、放流水の放流先である 河川水では上下流ともに稀に基準 値に適合しないことがあるため、 現状維持とする。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（放流水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	最高値（放流水）		変更点 (頻度)※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水水 質調査	年4回	1地点	その他 項目	無機体炭素	mg/L	—	200	170	終了する	③-B	濃度は減少傾向である。また、アンモニアと共存すると魚毒性が強まるとの知見があるが、これまで当該物質が原因と思われる河川での魚類の斃死は確認されていないため、調査を終了する。



## 工事後のモニタリング計画の見直し(案)基礎資料(河川水水質調査)

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号: 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値(上流)		平均値(下流)		変更点 (頻度)※1	見直し内容及び理由※2	理由	
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度				
河川水 水質調査	年4回	2地点	環境基準 健康項目	鉛	mg/L	0.01	0.00011	0.00017	0.0018	0.0025	年1回	②-A	河川上下流ともに基準値適合が継続しているため、頻度を年1回にする。	
				砒素	mg/L	0.01	0.00071	0.00050	0.0015	0.0011				
				硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	10	0.68	0.52	0.71	0.55				
				ほう素	mg/L	1	0.041	0.023	0.046	0.039				
				ふっ素	mg/L	0.8	0.038	0.027	0.12	0.10				
					ベンゼン	mg/L	0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	終了する	③-A	河川上下流ともに定量下限値未達が継続しているため、調査を終了する。
					1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
					六価クロム化合物	mg/L	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
					総水銀	mg/L	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005			
					1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004			

## 工事後のモニタリング計画の見直し(案)基礎資料(河川水水質調査)

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号: 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値(上流)		平均値(下流)		変更点 (頻度)※1	見直し内容及び理由※2	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度			
河川水 水質調査	年4回	2地点	環境基準 生活環境 項目	pH	—	6.5-8.5	7.5	7.6	7.5	7.6	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するのに必要であるため、現状維持とする。
				BOD	mg/L	2	1.2	3.0	1.5	3.0	年4回	①-A	河川上下流ともに基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする。
				SS	mg/L	25	10	14	12	19			
				溶存酸素量	mg/L	7.5	10	11	10	11			
				大腸菌群数 →大腸菌数	mpn/100mL	1000	367	314	385	412	年1回	②-A	河川上下流ともに基準値適合が継続しているため、頻度を年1回にする。
	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	18	14	18	17	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するのに必要であるため、現状維持とする。		
		水温	℃	—	15	15	14	14					
		流量	m <sup>3</sup> /秒	—	1.1	1.7	1.0	1.0					
		電気伝導率	mS/m	—	19	17	18	18					
		硫酸イオン	mg/L	—	14	12	14	11					

## 工事後のモニタリング計画の見直し(案)基礎資料(河川水水質調査)

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号: 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値(上流)		平均値(下流)		変更点 (頻度)※1	見直し内容及び理由※2	理由
							H21~ H27年度	H28~ R3年度	H21~ H27年度	H28~ R3年度			
河川水 水質調査	年4回	2地点	その他 項目	透視度	度	—	44	41	43	39	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するのに必要であるため、現状維持とする。
				アンモニア	mg/L	—	0.048	0.090	0.11	0.13	年1回	②-B	河川上下流ともに0.1mg/L程度と低濃度で推移しているため、頻度を年1回にする。
				無機体炭素	mg/L	—	9.0	8.2	9.7	8.8	終了する	③-B	河川上下流ともに濃度は10mg/L程度と低濃度で推移しており、また、アンモニアと共存すると魚毒性が強まるとの知見があるが、これまで当該物質が原因と思われる河川での魚類の斃死は確認されていないため、調査を終了する。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（バイオモニタリング）

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	基準値	平均値（上流）		平均値（下流）		変更点 (頻度) ※1	見直し内容及び理由※2	理由
							H21～ H27年度	H28～ R3年度	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
バイオモニタリング	年4回	2地点	—	AOD値	%	400	609	622	551	575	終了する	③-C	H30年5月以降、AOD値は基準値である400%を上回っており、上下流で大きな差異は見られていない。また、魚類の斃死も確認されていないことから、調査を終了する。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（浸透水水質調査）

※1「変更点」欄の           ：現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案					
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度)※1	見直し内容及 び理由※2	理由			
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度						
浸透水 水質調査	年4回	11地点	地下水等 検査項目	鉛	mg/L	0.01	0.060	0.017	年4回	①-A	基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする。			
				砒素	mg/L	0.01	0.069	0.030						
				1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	0.093	0.21						
				ベンゼン	mg/L	0.01	0.018	0.010	年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、頻度を年1回にする。			
				塩化ビニルモノマー	mg/L	0.002	0.0004	<0.0002	年1回	②-C	定量下限値未滿が継続しているが、最終処分場の維持管理基準において、浸透水の水質検査は地下水等検査項目を年1回以上測定することと規定されているため、頻度を年1回にする。			
				総水銀	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005						
				六価クロム化合物	mg/L	0.05	0.03	<0.02						
	1,2-ジクロロエタン			mg/L	0.004	0.0020	<0.0004							
	年1回						アルキル水銀	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005	年1回	①-D	定量下限値未滿が継続しているが、最終処分場の維持管理基準において、浸透水の水質検査は地下水等検査項目を年1回以上測定することと規定されているため、現状維持とする。
							カドミウム	mg/L	0.003	<0.0003	<0.0003			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（浸透水水質調査）

※1「変更点」欄の        : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※1	見直し内容及び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
浸透水 水質調査	年1回	11地点	地下水等 検査項目	全シアン	mg/L	不検出	<0.1	<0.1	年1回	①-D	定量下限値未達が継続しているが、 最終処分場の維持管理基準において、 浸透水の水質検査は地下水等検査項目を 年1回以上測定することと規定されているため、 現状維持とする。
				ポリ塩化ビフェニル	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005			
				トリクロロエチレン	mg/L	0.01	<0.002	<0.002			
				テトラクロロエチレン	mg/L	0.01	<0.0005	<0.0005			
				ジクロロメタン	mg/L	0.02	<0.002	<0.002			
				四塩化炭素	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002			
				1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1	<0.002	<0.002			
				1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04	<0.004	<0.004			
				1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	1	<0.0005	<0.0005			
				1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.006	<0.0006	<0.0006			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（浸透水水質調査）

※1 「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※1	見直し内容及 び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
浸透水 水質調査	年1回	11地点	地下水等 検査項目	1,3-ジクロロ プロペン	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002	年1回	①-D	定量下限値未滿が継続しているが、 最終処分場の維持管理基準におい て、浸透水の水質検査は地下水等 検査項目を年1回以上測定すること と規定されているため、現状維持とす る。
				チウラム	mg/L	0.006	<0.0006	<0.0006			
				シマジソ	mg/L	0.003	<0.0003	<0.0003			
				チオベンカル ブ	mg/L	0.002	<0.002	<0.002			
				セレン	mg/L	0.01	<0.002	<0.002			
	年4回	11地点	その他 項目	BOD	mg/L	20	87	63	年4回	①-A	基準値に適合しないことがあるた め、現状維持とする。
				ほう素	mg/L	1	31	15			
				ふっ素	mg/L	0.8	2.9	2.7			
				SS	mg/L	—	1800	150	年4回	①-E	鉛や砒素など懸濁物質の影響を受け やすい物質の濃度を把握する上でSS は重要な指標となるため、現状維持 とする。
				pH	—	—	8.6	8.4	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するの に必要であるため、現状維持とする。

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（浸透水水質調査）

※1「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案					
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※1	見直し内容及 び理由※2	理由			
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度						
浸透水 水質調査	年4回	11地点	その他 項目	塩化物イオン	mg/L	—	1400	970	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するのに 必要であるため、現状維持とする。			
				水温	℃	—	30	25						
				電気伝導率	mS/m	—	804	670						
				酸化還元電位	mV	—	-88 375	-27 391						
				硫酸イオン	mg/L	—	330	470						
				硝酸性窒素及 び亜硝酸性窒 素	mg/L	10	5.4	0.8				年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、頻 度を年1回にする。
				アンモニア	mg/L	—	330	330				年1回	②-B	濃度が減少傾向又は低濃度で推移し ているため、頻度を年1回にする。
				重炭酸イオン	mg/L	—	3000	3200						
	硫化物イオン	mg/L	—	48	34									
年2回				ダイオキシン 類	pg-TEQ/L	1	110	21	年2回	①-A	基準値に適合しないことがあるた め、現状維持とする。			



## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（地下水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※1	見直し内容及び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
地下水水質調査	年4回	10地点	地下水等 検査項目	鉛	mg/L	0.01	0.059	0.031	年4回	①-A	基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする。
				砒素	mg/L	0.01	0.068	0.028			
				1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	0.0060	0.0090	年1回	②-A	基準値適合が継続しているため、頻度を年1回にする。
				ベンゼン	mg/L	0.01	<0.001	<0.001	終了する	③-A	定量下限値未滿が継続しているため、調査を終了する。
				塩化ビニルモノマー	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002			
				総水銀	mg/L	不検出	<0.0005	<0.0005			
				六価クロム	mg/L	0.05	<0.002	<0.002			
				1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004	0.0005	<0.0004			
			その他 項目	BOD	mg/L	20	21	27	年4回	①-A	基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする。
			ほう素	mg/L	1	0.21	0.28				

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（地下水水質調査）

※1「変更点」欄の  : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値(全井戸)			変更点 (頻度)※1	見直し内容及び理由※2	理由
						基準値	H21~ H27年度	H28~ R3年度			
地下水水質 調査	年4回	10地点	その他 項目	ふっ素	mg/L	0.8	0.26	0.26	年4回	①-A	基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする。
				SS	mg/L	-	6600	720	年4回	①-E	鉛や砒素など懸濁物質の影響を受けやすい物質の濃度を把握する上でSSは重要な指標となるため、現状維持とする。
				pH	-	-	8.8	8.2	年4回	①-B	水質の一般理化学性を確認するのに必要であるため、現状維持とする。
				塩化物イオン	mg/L	-	270	220			
				水温	℃	-	23.1	25.0			
				電気伝導率	mS/m	-	117	144			
				酸化還元電位	mV	-	57 419	63 640			
				硫酸イオン	mg/L	-	57	58			
				硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	10	1.1	5.8			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（地下水水質調査）

※1 「変更点」欄の   : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※1	見直し内容及 び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
地下水水質 調査	年4回	10地点	その他 項目	アンモニア	mg/L	—	19.0	15.0	年1回	②-B	濃度が減少傾向又は低濃度で推移しているため、頻度を年1回にする。
				重炭酸イオン	mg/L	—	590	900			
				硫化物イオン	mg/L	—	2.9	0.1			
	年2回			ダイオキシン類	pg-TEQ/l	—	1.3	2.9	年2回	①-A	基準値に適合しないことがあるため、現状維持とする

工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名		現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況					見直し案			
		頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
発生ガス 等調査	発生ガス 調査	月1回	17地点	-	硫化水素	ppm	-	400	160	月1回	①-F	次の理由により現状維持とする。 ・ガスが発生せず，有害ガス（硫化水素，メタン）の濃度もゼロとなる地点が未だに存在しない。 ・有害ガスが発生しやすい嫌気的条件下の程度を把握するため，酸素や二酸化炭素を測定している。 ・孔内温度と気温は，孔内外の温度を比較するのに必要である。
					二酸化炭素	%	-	50	17			
					酸素	%	-	24	22			
					メタン	vol%	-	98	100			
					発生ガス量	L/分	-	8.4	2.5			
					孔内温度	℃	-	36.5	39.0			
					気温	℃	-	37.6	35.8			

工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1 「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名		現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況					見直し案			
		頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
							基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
発生ガス 等調査	浸透水 調査	月1回	13地点	—	電気伝導率	mS/m	—	850	650	年4回の浸 透水水質調 査で代替す る	③-D	いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の浸透水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。 なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、浸透水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。 ※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えれば、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。
					酸化還元電位	mV	—	—130 430	—120 420			
					塩化物イオン	mg/L	—	1300	840			
					水温	°C	—	30.9	26.7			
					水位	m	—	略	略			
					pH	—	—	8.8	8.6			
					硫酸イオン	mg/L	—	320	510			
					透視度	度	—	>50	>50			

工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1 「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
下流地下水状況調査	月1回	8地点	—	電気伝導率	mS/m	—	110	130	年4回の地下水水質調査で代替する	③-D	いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の地下水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。 なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、地下水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。 ※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えれば、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。
				酸化還元電位	mV	—	510	510			
				塩化物イオン	mg/L	—	190	260			
				水温	°C	—	34.3	29.5			
				水位	m	—	略	略			
				pH	—	—	7.9	8.0			
				硫酸イオン	mg/L	—	44	66			
				透視度	度	—	>50	>50			

工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（発生ガス等調査，下流地下水状況調査，放流水状況調査）

※1「変更点」欄の     ：現計画からの変更点

※2「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値（全井戸）			変更点 (頻度) ※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
放流水状況調査	月1回	1地点	—	電気伝導率	mS/m	—	220	190	年4回の放 流水水質調 査で代替す る	③-D	いずれの項目も水質の一般理化学性を確認するためのものであるが、毎月の測定結果に大きな変動もない。また、同様の項目を年4回の放流水水質調査でも確認しているため、毎月の調査を年4回の調査で代替する。 なお、調査頻度の縮小分を補完するため、大雨で処分場の出入口付近の観測井戸が冠水した際※に、処分場周辺の水質への影響の有無を確認する目的で、放流水を採取し、電気伝導率、酸化還元電位及びpHを測定することとしており、処分場及びその周辺の状況を把握する体制を構築する。 ※処分場近くの降雨量観測地点の測定結果をオンラインで確認できる体制をとっており、100mm/日を超えれば、処分場周辺の冠水の有無を確認するため、処分場に赴くこととしている。
				酸化還元電位	mV	—	480	560			
				塩化物イオン	mg/L	—	190	130			
				水温	℃	—	35.6	28.8			
				pH	—	—	8.5	8.3			
				硫酸イオン	mg/L	—	18	7.4			
				透視度	度	—	>50	>50			

## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（地中温度調査）

※1 「変更点」欄の      : 現計画からの変更点

※2 「見直し内容及び理由」欄の記号 : 資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況								見直し案			
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値 (H16-13と Loc. 1aとの差)			地点	Loc. 1aとの温度 差の推移 (H21~H27年度 の平均→H28~R3 年度の平均)	変更点 (地点) ※ 1	変更点 (頻度) ※ 1	見直し内容及 び理由※2	理由
						基準値	H21~ H27 年度	H28~ R3 年度						
地中温度 調査	年4回	廃棄物埋立区 域内11地点 No. 3, No. 5, H16-3, H16- 5, H16-6, H16-10, H16- 11, H16-13, H17-15, H26- 3a, H26-3b  廃棄物埋立区 域外11地点 Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H16- 1b, H16-15, H17-19, H26- 1a, H26-1b, H26-2	-	地中 温度	℃	-	20.4	13.1	No. 3	9.0→5.5	廃棄物埋立 区域内9地 点 No. 3, H16- 3, H16-5, H16-6, H16- 10, H16- 11, H16- 13, H17-15  廃棄物埋立 区域外1地 点 Loc. 1a	年2回	④	・調査地点 埋立区域内の2地点 (H26-3a, H26-3b) 及び埋立区域外の10地点 (Loc. 1, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H16-1b, H16-15, H17-19, H26-1a, H26-1b, H26-2) の地中温度と、比較対照地点である Loc. 1aの地中温度を比較すると、温度差はほとんど見られない又は比較対照地点のLoc. 1aのほうが温度が高い傾向にあるため、上記12地点を調査対象外とする。  ・調査頻度 調査頻度は現在年4回としているが、測定時期に関係なく、Loc. 1aとの温度差は縮小し続けており、時期を細かく分ける必要性が大きくないことから、現在の半分の年2回の頻度に変更する。なお、調査時期は温度差が大きい夏季及び冬季とする。
									No. 5	6.5→4.8				
									H16-3	15.4→7.8				
									H16-5	4.4→3.7				
									H16-6	3.3→1.8				
									H16-10	11.4→7.4				
									H16-11	9.1→5.0				
									H16-13	16.7→11.1				
									H17-15	6.4→4.6				
									H26-3a	-0.3→0.0				
									H26-3b	0.0→-0.2				
									Loc. 1	0.7→0.3				
									Loc. 1b	0.5→0.3				
									Loc. 3	-1.4→-2.3				
									Loc. 4	-0.2→0.4				
									H16-1b	-1.1→-1.1				
									H16-15	1.2→1.3				
									H17-19	-3.0→-3.3				
H26-1a	-													
H26-1b	1.1→1.0													
H26-2	-1.1→-1.4													



## 工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（地下水位調査）

※1 「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画（平成28年度改正）					見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	変更点	見直し内容及び理由※1	理由
地下水位調査	24時間	廃棄物埋立区域内11地点	—	地下水位, 降水量	m, mm	なし	①-G	有害物質を含む汚染水が場内に留まっていることを確認するため、地下水位を24時間連続で測定し、地下水の流れを把握する必要がある。また、地下水位と降雨との関連を確認し、水質への影響の有無について把握する必要があることから、現状維持とする。
		廃棄物埋立区域外10地点	—	地下水位	m			

工事後のモニタリング計画の見直し（案）基礎資料（多機能性覆土状況調査，表層ガス調査）

※1「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値			変更点	見直し内容及び理由※1	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
多機能性覆土状況調査	年1回	多機能性覆土 施工箇所13地点	—	硫化水素	ppm	—	<0.1	<0.1	なし	①-H	硫化水素濃度は定量下限値未満が継続しているが、埋立廃棄物層中の硫化水素が大気中に拡散されるのを抑える多機能性覆土の効果が持続しているかを今後も確認するため、現状維持とする。
		比較対照地点 (通常覆土施工箇所)13地点	—	硫化水素	ppm	—	4	<0.1			

※1「見直し内容及び理由」欄の記号：資料4の分類表を元に記載

調査名	現計画 (平成28年度改正)		モニタリング状況						見直し案		
	頻度	地点	基準	対象物質	単位	最高値			変更点	見直し内容及び理由※1	理由
						基準値	H21～ H27年度	H28～ R3年度			
地表ガス調査	年1回	5地点 (H22年度表層ガス調査で比較的濃度の高い硫化水素検出地点の周辺)	—	硫化水素	ppm	—	<0.1	<0.1	なし	①-I	硫化水素濃度は定量下限値未満が継続しているが、過去に高濃度の硫化水素が確認された地点の状態を把握するため、現状維持とする。